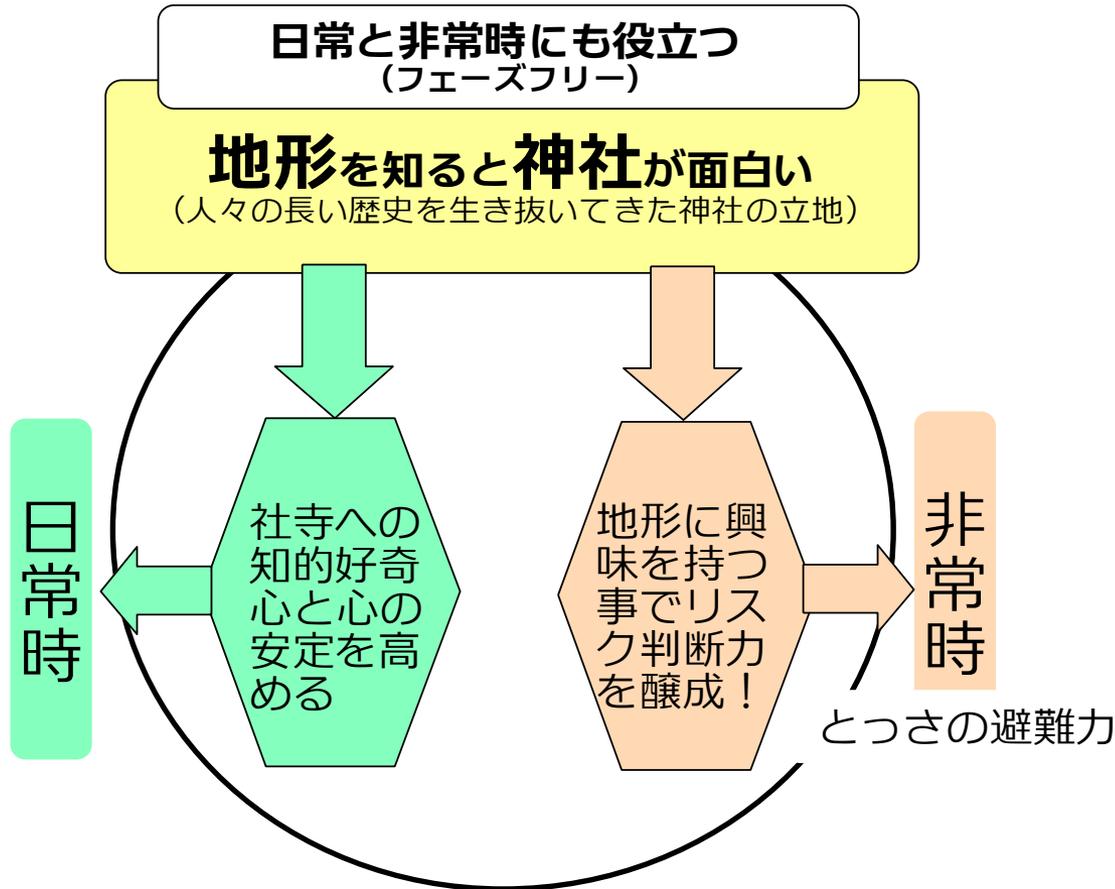


人々の長い歴史を生き抜いてきた社寺

地形を知ると社寺が面白い



社寺小冊子
第1号

参考資料
国交省ハザードマップ



神社等ホームページ
QRコード
大学関係資料
Google map

岩間 文雄

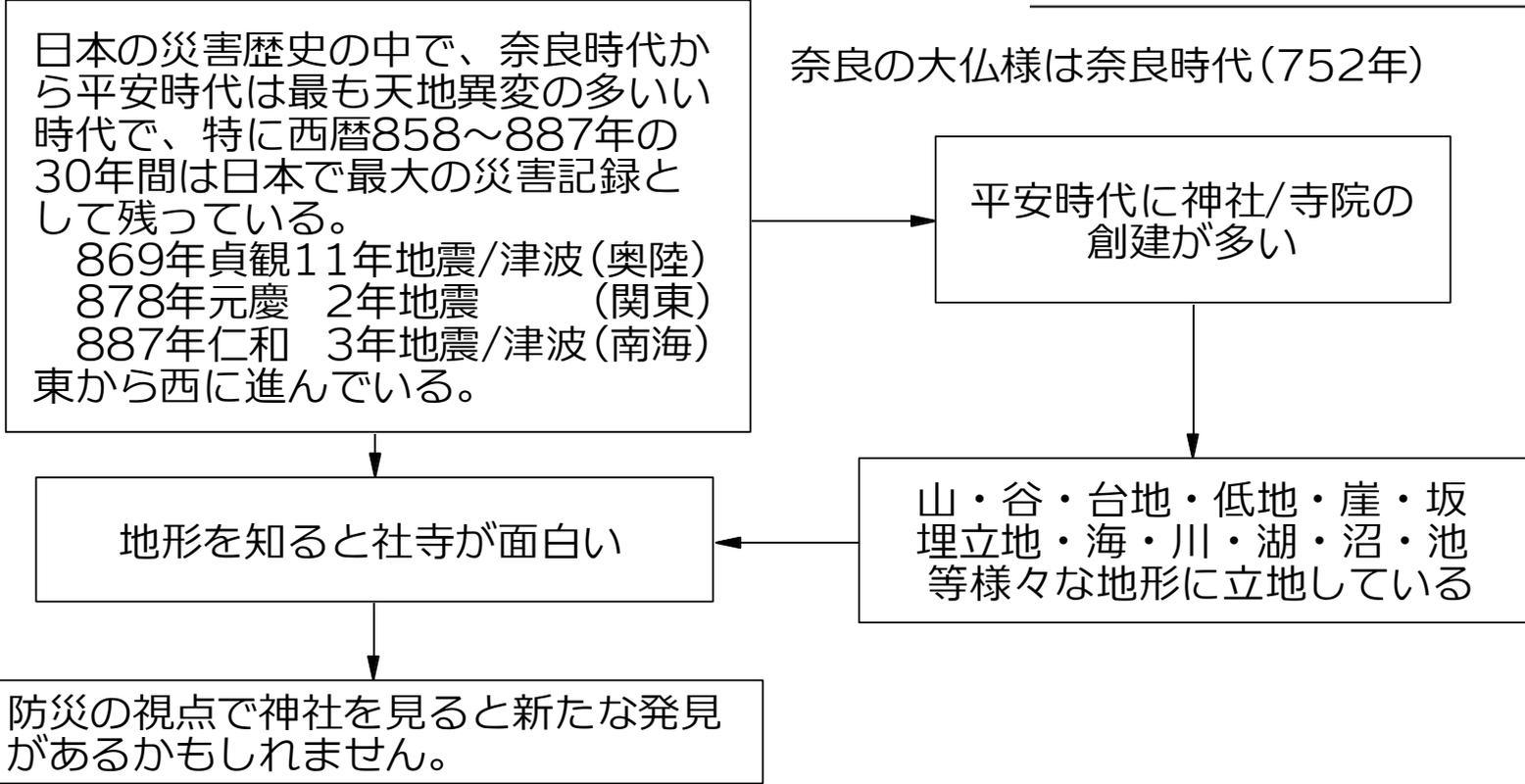
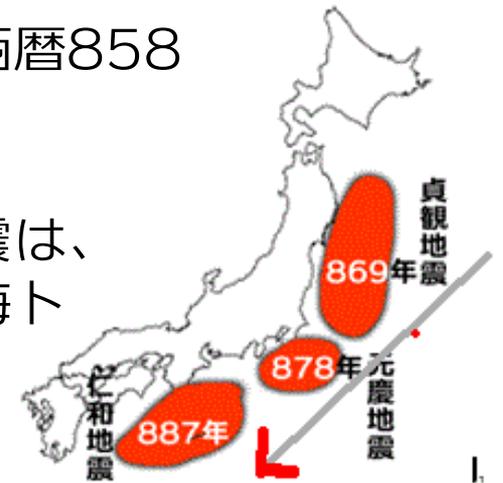
中小企業診断士

090-2637-1164

フェーズフリーとは、**日常時**と**非常時**という2つのフェーズ (phase 局面) をフリー (free) にするという考え方でフェーズフリー協会が提唱しています。
(フェーズフリー協会2018年)

平安時代は大災害の最も多い時代でしたが、西暦858年から30年間は大きな災害が発生しました。

特に貞観地震-元慶地震-仁和地震の3つの地震は、今後、想定される東日本大震災-関東地震-南海トラフ地震を思わせる流れがあります。



1. 水害を収める伝承事例

仙台市若林区霞目
浪分神社(稻荷大神、豊玉姫神)
海神の娘

浪分神社は1836年までは以前の場所に立地していたが、500m位奥に移動した。神社には「あるとき大津波が発生したが、やがて白馬に跨った海神が現れ波を二分して鎮めた」という伝説が残されている。

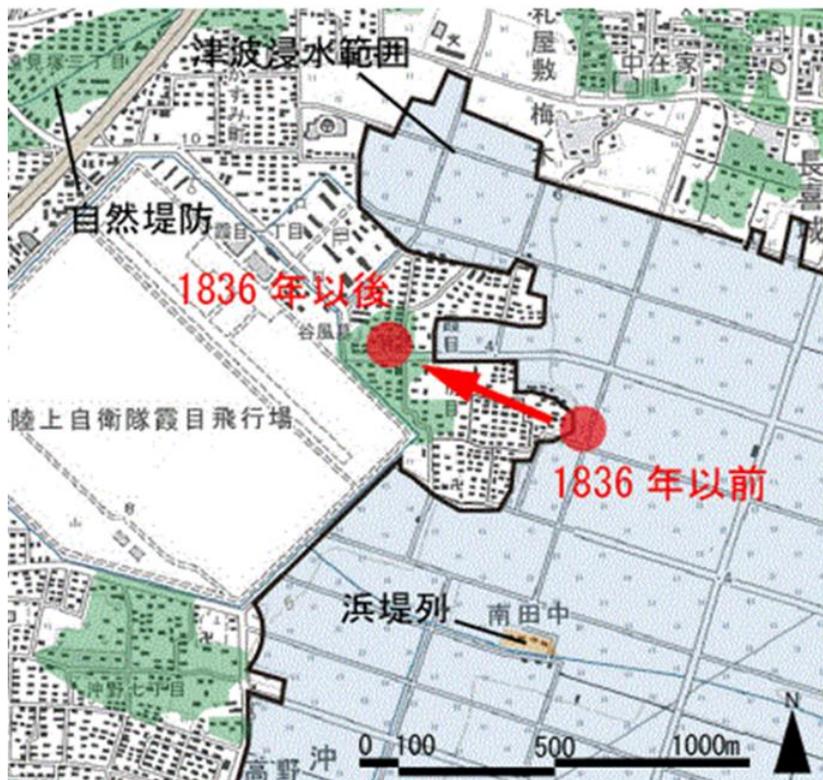


図-4 浪分神社の立地の変遷 仙南平野の神社立地特性より
東京大学大学院 宮坂、中井、尾崎



2. 東日本大震災の津波被害における神社の祭神とその空間的配置に関する研究

東京工業大学大学院
社会理工学研究科
高田、梅津、桑子
(ホームページより)

2011年3月11日東日本大震災
日本地理学会作成の津波被災マップ等を用いて現地調査を実施した

○調査神社	215カ所
・被害を免れた神社	139カ所
・一部浸水した神社	23カ所
・被害を受けた神社	53カ所

現地調査事例

- ・津波浸水範囲の境界上に多くの神社が位置している。
- ・津波が川を上流に遡上していった形跡が見て取れ、その遡上範囲を縁取るように神社が点在している。
- ・言い換えれば、昔の人々は津波や洪水の被害を受けないように、高台の安全な場所に神社を配置していたのだと考えられる。

東日本大震災で宮城県沿岸部において、神社の被災状況を調査した結果として**須佐之男命**を祀る神社、**熊野系神社**、**八幡系神社**の多くが津波被害を免れていることを示した。

○被災しなかった神社と神様

1位 スサノオを祀った神社(16社/17社)

八坂神社 八雲神社 八重垣神社 須賀神社等

2位 熊野系神社・家津御子大神(けつみこおおかみ)(10社/11社)

熊野三山(本宮、新宮、那智の三社)・熊野権現

3位 八幡系神社(18/24)

誉田別尊(ほんだわけのみこと)、応神天皇を祀った神社

3. 東日本大震災の学校の立地と神社への避難

震災当日：南三陸町戸倉折立地区の戸倉小の生徒と近くの保育所の子供たちは先生と共に、15分位歩いて高台の五十鈴神社に避難し、津波の被害を免れました津波は鳥居の手前で止まりました。

神社に逃げたきっかけ

- ①校舎(3階建)の屋上が最初の避難場所として想定
- ②地元出身の職員が校舎でなく、高台に避難すべきと指摘
- ③避難訓練で神社のある高台に避難を実施していた。



神社立地場所の様子



重ねるハザードマップに加筆



五十鈴神社 参道の様子

4. 地域防災の拠点・栗橋八坂神社

久喜市栗橋北2-15-1

祭神：スサノオノミコト
(水災に強い神様)

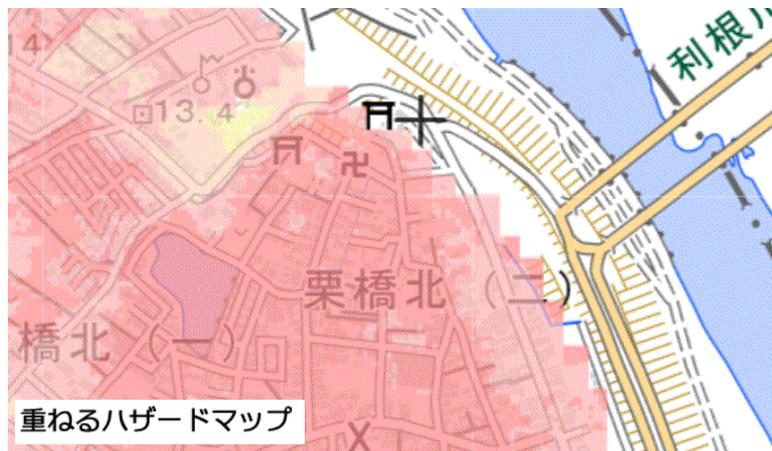
地形：利根川堤防上(新設)

慶長年間(1586~1615)、利根川の大洪水の折、当地の村人が総出で堤防の補強工事を行っていたところ、川の波間に鯉と泥亀に囲まれた神輿が流れて来たので、これを引き上げると、元栗橋に祀られている八坂神社の神輿でした。村人は、この激しい流れに神輿が転覆することもなく、当地まで流れ着いたことから、誠に神慮によるものであると感じ、毎年6月に祭りをを行うようになった。(当社案内書から)



久喜市と災害時協定締結(フェーズフリー)

八坂神社と隣接する八坂会館を、水害時等の避難場所や地元の水防団・消防団等の活動拠点とする協定が締結されました。久喜市は、市内を流れる利根川の影響で、ほぼ全域が洪水浸水想定区域となっており、栗橋・鷲宮地区は、特に浸水が深く、治水に対しては地域住民の関心が非常に高い地域です。社会貢献型のこれからの神社と思います。



つきじんじゃ

5. 調神社(浦和区)

さいたま市浦和区岸町3丁目17-25

2,000年前の第10代崇神天皇の勅命により創建

天照大御神(あまてらすおおみかみ)
豊宇気姫命(とようけひめのみこと)
素盞鳴尊(すさのおのみこと)

調(つき一月うさぎ)



御手洗池



6. 鷲宮神社(久喜)

久喜市鷲宮1-6-1



天穂日命 (アメノホヒノミコト)

武夷鳥命 (タケヒナトリノミコト) 出雲出身のヤマト王権

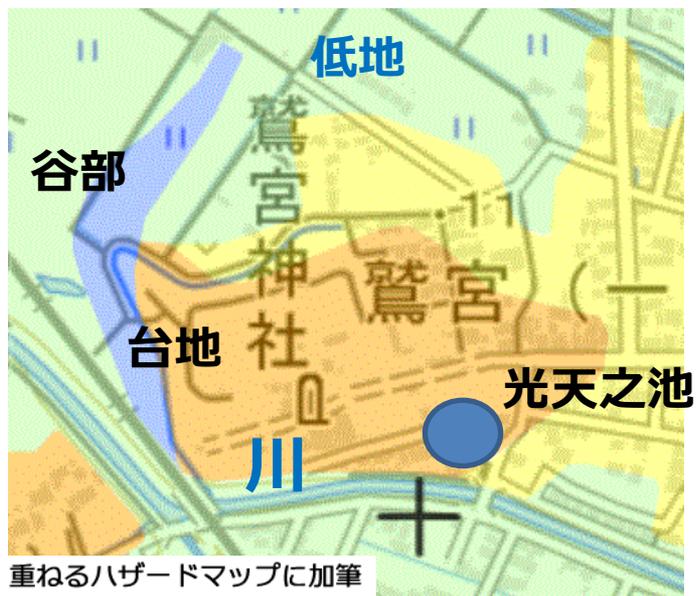
大己貴命 (オオナムチノミコト)

当神社は、出雲族の草創に係る関東最古といわれる大社である。

光天之池(みひかりの池)

境内整備事業の一環として、H11年より、古来の御神池ら復元すべく土砂の搬出をしておりますと、池から湧き水が溢れ出て、龍のような雲が空を覆いました。その時に「天まで光輝くような池」というご神託を受け、池の名を光天之池と名付けました。社務所

(境内の看板より)



光天之池



7. 出雲伊波比神社

大国主神

(いわい)

埼玉県毛呂山町岩井西5-17-1

古墳時代(300~600年)

埼玉県毛呂山町、臥龍山(がりゅうさん)
標高90mの上にあります。

景行天皇(123年)ヤマトタケルノミコトは東征の折、命を助けた龍が姿を変えてこの御山になったとのこと。御鎮座より1900年、伊波比(いわい)という社名から祝いの宮として親しまれております。厄除方位除、子育て安産、病氣平癒など。



大永7年(1527年)の焼失後、(1528年)には毛呂顕繁が再建しました。

現在の本殿はこの再建時のもので一間社流造、県内最古の神社建築であり、棟礼二面と併せて国の重要文化財に指定されています。

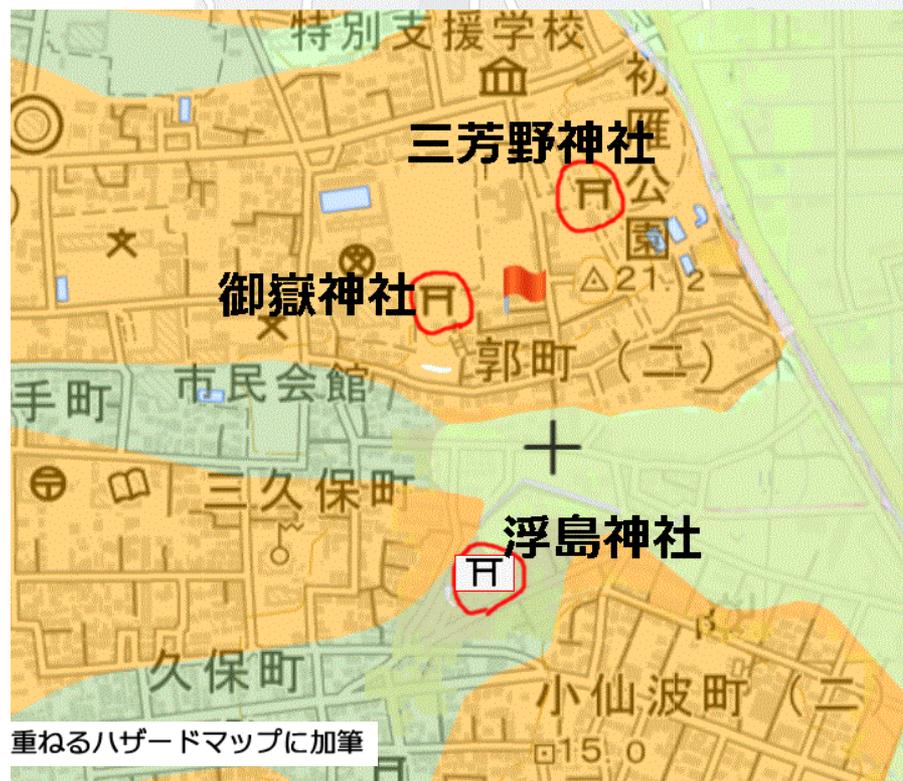
毛呂山町ホームページより

8. 三芳野神社(川越)

祭神 素盞男尊、奇稻田姫命
創建 807年 川越市郭町2-25-11

童歌「通りゃんせ」はこの神社の参道が舞台といわれる。

川越城築城以前から当地にあったが、太田道真・太田道灌父子による川越城築城により城内の天神郭（くるわ）に位置することになった。
埼玉県指定文化財。



三芳野神社付近の地形

重ねるハザードマップに加筆

9. 浮島稲荷神社

川越市久保町17

祭神 素盞男尊、奇稻田姫命
創建 807年 川越市郭町2-25-11
(平安時代)



七つ釜伝説「昔、川越城が敵に攻め落とされた際、お姫様がこの浮島神社まで逃げてきました。しかし、夜の暗さで誤って七つ釜に落ちてしまいました。お姫様は這い上がろうと岸辺の葦を掴みましたが、力尽きて沼の底に沈んでしまったそうです。それ以来、ここに生える葦はどれも片葉になったと言います。」
境内には、片葉の葦の石碑が立っています。

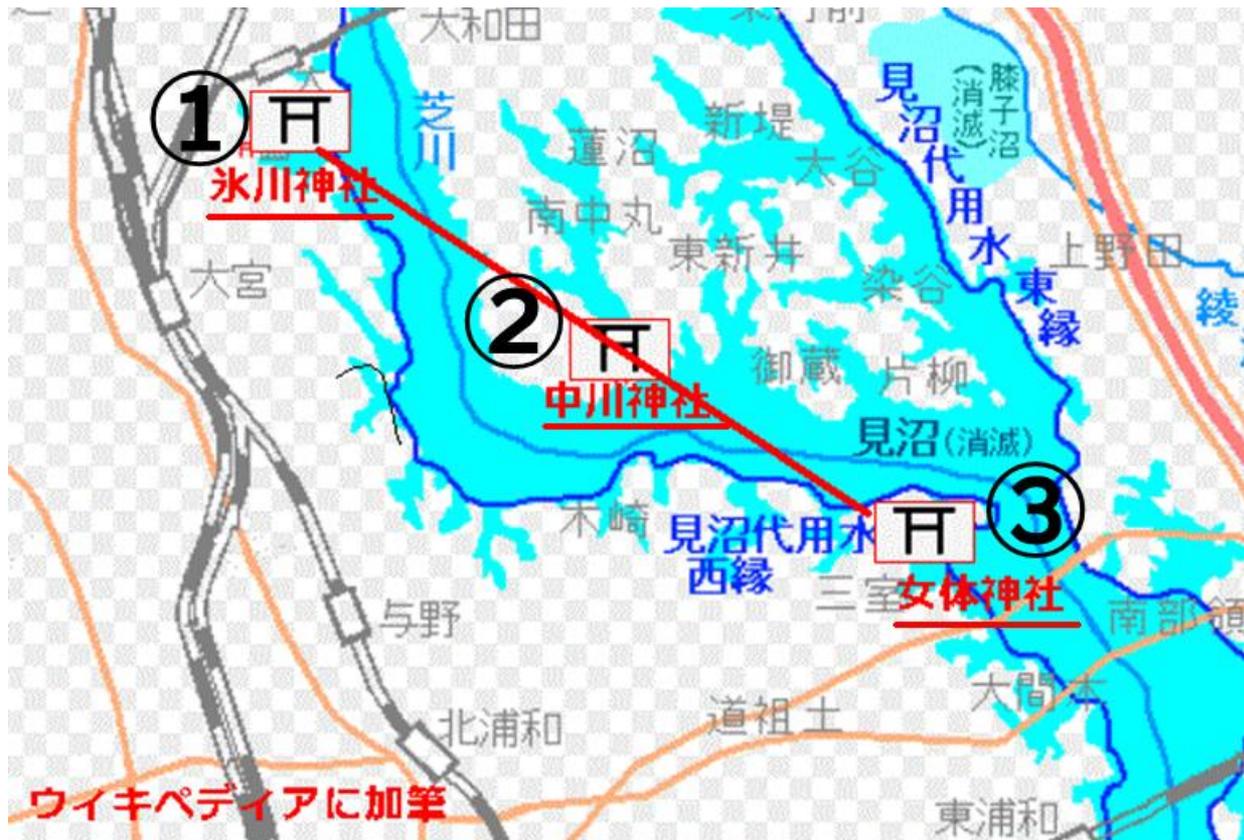
10. 武蔵国一宮氷川神社の家族神社

説：大宮氷川神社（須佐之男命・男体社）、中山神社（大己貴命）、氷川女体神社（奇稻田姫命・女体社）の三社を合わせて、武蔵国一宮と称されていたとも伝えられています。実際に三社は一直線場に立地されております。

①大宮氷川神社
（須佐之男命・男体社）

②中山神社
（大己貴命）

③氷川女体神社
（奇稻田姫命・女体社）

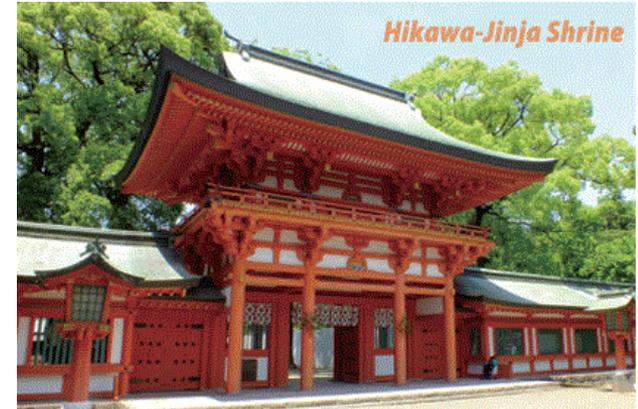


①武蔵一宮氷川神社

さいたま市大宮区高鼻町1-407

西暦49年頃
(約2000年前)

須佐之男命(すさのおのみこと)
稲田姫命(いなだひめのみこと)
大己貴命(おおなむちのみこと)
大国主命のこと



207社/287社中、埼玉の元荒川沿いに立地している。

大宮台地の舌状台地先端に位置しています。氷川神社は
第5代孝昭天皇の3年4月未の日の創立、

第12代景行天皇の御代、日本武尊は東夷鎮定の祈願をなされたと伝わっています。

第13代成務天皇の御代、**出雲族の兄多毛比命**が朝廷の命により武蔵国造となって奉崇、格式を高めた。

第45代聖武天皇の御代、武蔵一宮と定められた。

第60代醍醐天皇の御代、延喜式神名帳には名神大社として、

武家時代になっても、鎌倉・足利・北条・徳川氏等相次いで当社を尊仰し、社殿の再建や造営を行っております。(ホームページより抜粋) 出雲市**斐川の地名**とさいたま市**氷川神社**の類似性も面白い。

②中川神社(見沼)

大己貴命(大国主命)、素盞鳴命、稲田姫命
さいたま市見沼区中川143

当社は、「武蔵一宮氷川神社」と「氷川女体神社」を結ぶ線上のほぼ中間に位置することから、古くより関係の深い社として「中氷川神社」とも呼ばれていた中川の鎮守です。

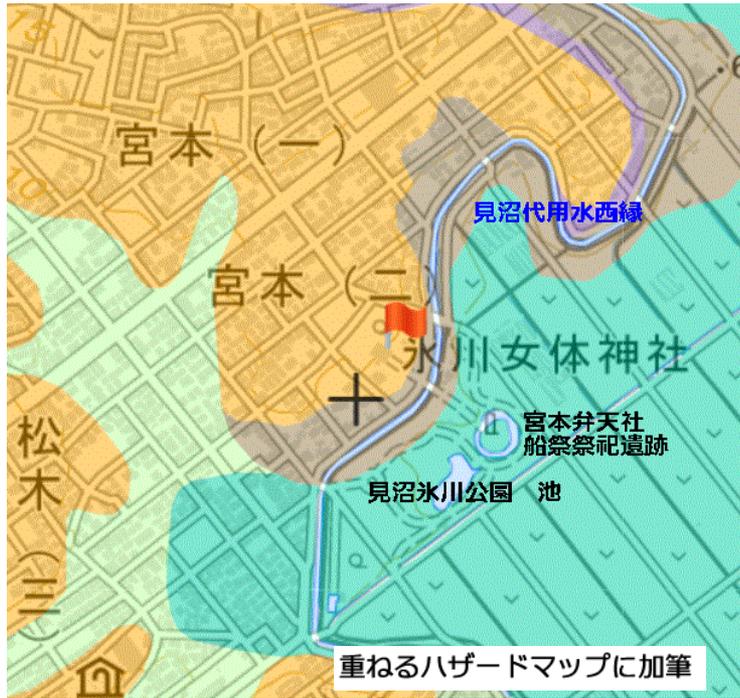
社伝によると、創建は人皇十代崇神天皇の御代二年と伝えられています。天正十九年(1591)十一月に、徳川家康から社領十五石の御朱印を賜った格式のある神社です。

(埼玉県的神社より)



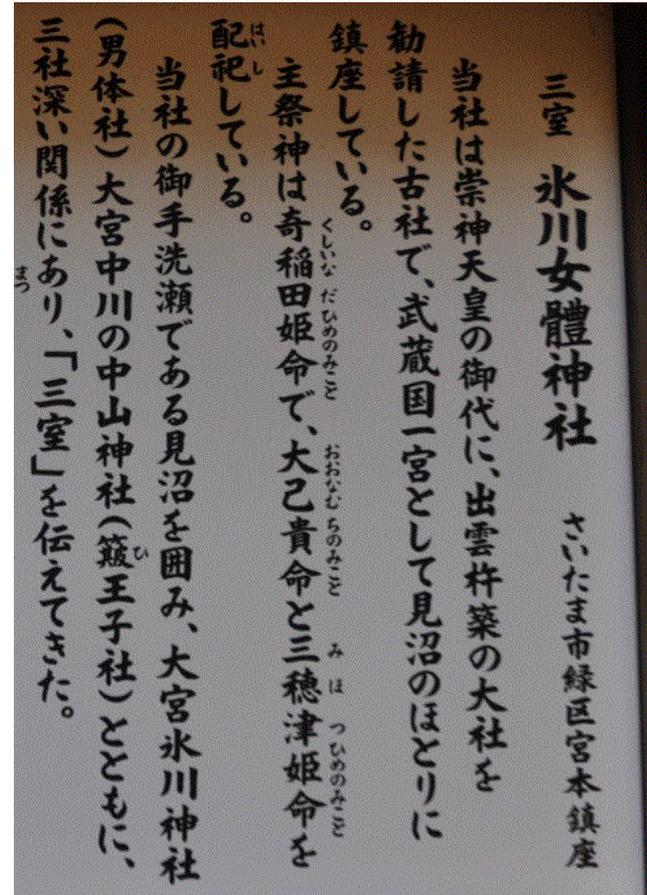
③氷川女体神社(緑区)

主祭神 奇稲田姫命(クシナダヒメ)
さいたま市緑区宮本2丁目17-1



当社は旧見沼(神沼)の台地の先に鎮座、古代から存在した沼で、この沼は御手洗として当社と一体であり、ここに坐す神は女體神であった。創建の由緒は「出雲国大社同躰」とあり、氷川神社、中山神社の三社を合わせ氷川神社として奉斎した。

埼玉では珍しい暖地性常緑広葉樹叢であることから、昭和56年に埼玉県より「ふるさとの森」の第1号として指定された。
(境内の掲示より)



11. 瀧宮神社

天照大御神

豊受大御神

彦火火出見尊(山幸彦)

深谷市西島5-6-1



瀧宮神社は、深谷市の南を流れる荒川、櫛引台地と低地の境目に位置し、秩父山地に降る雨は荒川の流れとなり、湧き水となってこの地に現れ、昔の人々が



生活を営む場所となった。いつしか「瀧の宮」と称して神社を祀りました。神社ホームページより

12. 元荒川に沿ってある久伊豆神社

<江戸時代以前の荒川>沿って

江戸時代以前の荒川は、熊谷、鴻巣、春日部あたりを通り、元荒川を経て、越谷あたりで利根川（古利根川）と合流していました。最下流域では、当時の入間川と合流し、江戸に流れ込んでいました。その最下流域部分が現在の隅田川です。

したがって、現在の隅田川は、荒川および入間川の下流にあたることになります。当時の関東平野は、熊谷あたりを最深部とするを形成しており、熊谷から江戸湾に流れ込む荒川の下流域では、絶えず流路を変え、氾濫を繰り返していたようです。そのために、当時から荒川の開発に注目が集まっていた。

武蔵七党（むさししちとう）は、平安時代後期から鎌倉時代・室町時代にかけて、武蔵国を中心として下野、上野、相模といった近隣諸国にまで勢力を伸ばしていた同族的武士団の総称である。（以上、ウィキペディア）

埼玉県の久伊豆神社

- ・さいたま市 9社
- ・鴻巣市 4社
- ・行田市 6社
- ・加須市 7社
- ・久喜市 8社
- ・草加市 1社
- ・熊谷市 2社
- ・蓮田市 7社
- ・越谷市 8社
- ・白岡市 4社
- ・八潮市 2社

江戸時代以前



12-①久伊豆神社の総本山・玉敷神社

加須市騎西552

大己貴命(大国主命)創建703年

玉敷神社は埼玉県加須市騎西にある神社。**元荒川流域に分布する久伊豆神社の総本社の存在の神社である。**

703年、東山道鎮撫使・多次比真人三宅磨によって創建された。江戸時代までは「久伊豆大明神」とも称されており、埼玉郡の総鎮守として尊崇されていた。(ウィキペディア)



神苑：樹齢400年以上を誇る藤の巨木がある。直径1mを超える幹から伸びた枝の広がりには約700㎡に及び、毎年4月末ごろから5月上旬にかけて長さ1mを超える見事な花房を見せてくれる。

12-② 久伊豆神社

さいたま市

祭神：大国主命

岩槻区宮町2-6-55

久伊豆神社は欽明天皇（539～571）の時代、出雲族の土師氏が東国へ移住するにあたりこの地に出雲族の親神たるを勧請したのが始まりとされています。

平安時代、武蔵野に勢力を誇った武士集団「武蔵七党」のうち野与党と私市党の崇敬を集め、その勢力下にあった元荒川流域に久伊豆信仰が広まりました

黒奴・御輿の歴史：

『岩槻に過ぎたるものが二つある「児玉南柯(こだまなか)」と「時の鐘」』とされている。

南柯は岩槻城主大岡家に仕えた教学者です。その南柯の書いた「南柯日記」の中に「久伊豆神事」と記されておりその様子が事細かに書いてあります。



ひさいずさんの孔雀

久伊豆神社のシンボルである孔雀は旧皇族の朝香宮鳩彦殿下より御下賜戴いた末裔です。宮様から戴いた3羽の孔雀は歴代宮司や地元の方により大切に育てられ、現在では20羽近くまで殖えました。

以上、ホームページより



重ねるハザードマップ・国交省より

12-③久伊豆神社

越谷市越ヶ谷1700

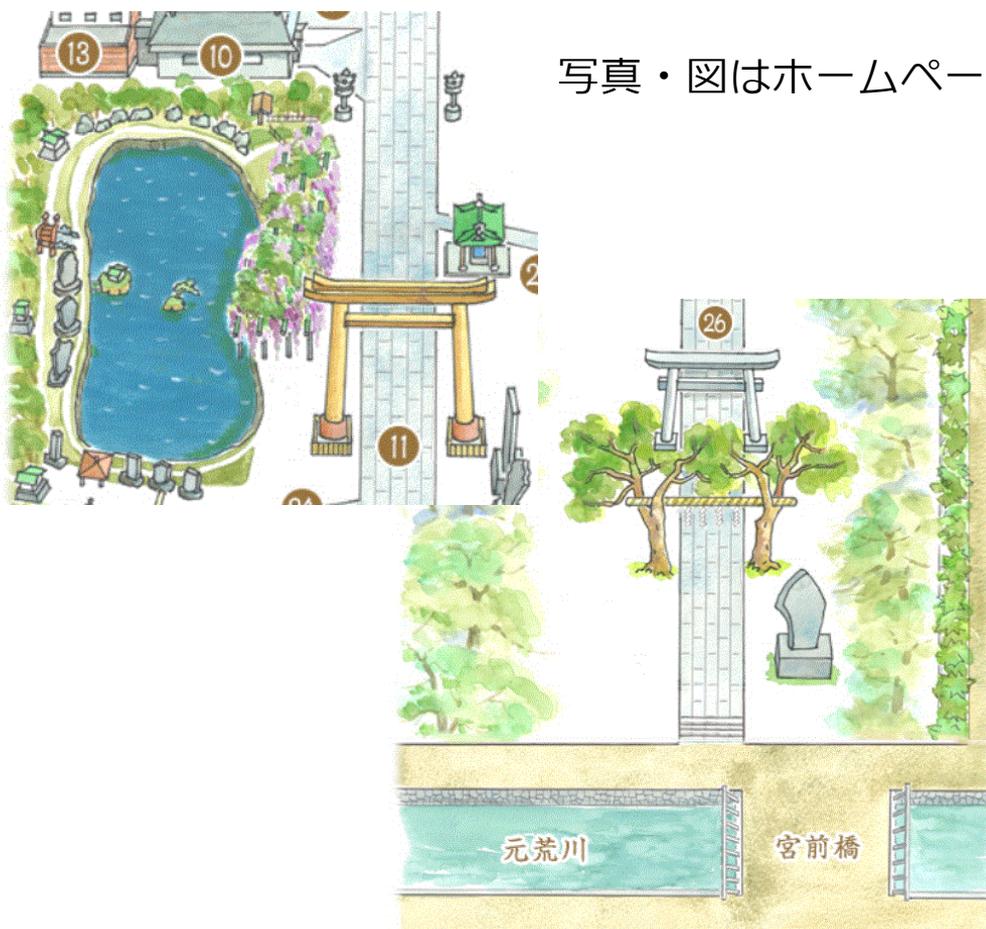
祭神：大国主命(大黒様)
言代主命(恵比寿様)

久伊豆神社は、埼玉県越谷市越ヶ谷にある神社である。
越谷の総鎮守とされている。

旧社格は郷社。宮内庁埼玉鴨場と共に市の「環境保全
地域」に指定されている。当社のほか、越谷市内に7社
の「久伊豆神社」が鎮座している。 ウィキペディアより



写真・図はホームページより



重ねるハザードマップに加筆

13. 熊谷星川旧河道沿いの4神社と1寺

熊谷扇状地の 星川旧河道の 4つの神社と1寺

荒川扇状地では古くから人々の暮らしの痕跡が残っており、最も古いもので旧石器時代から縄文・弥生・奈良平安時代までの集落の遺跡が発見されている。

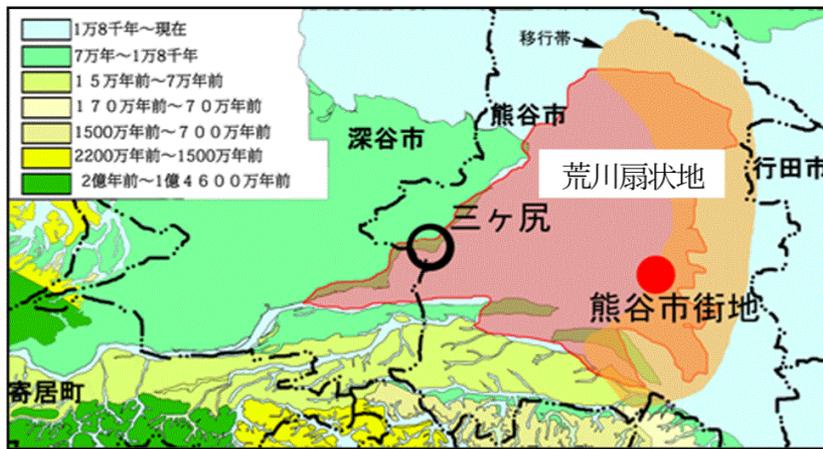
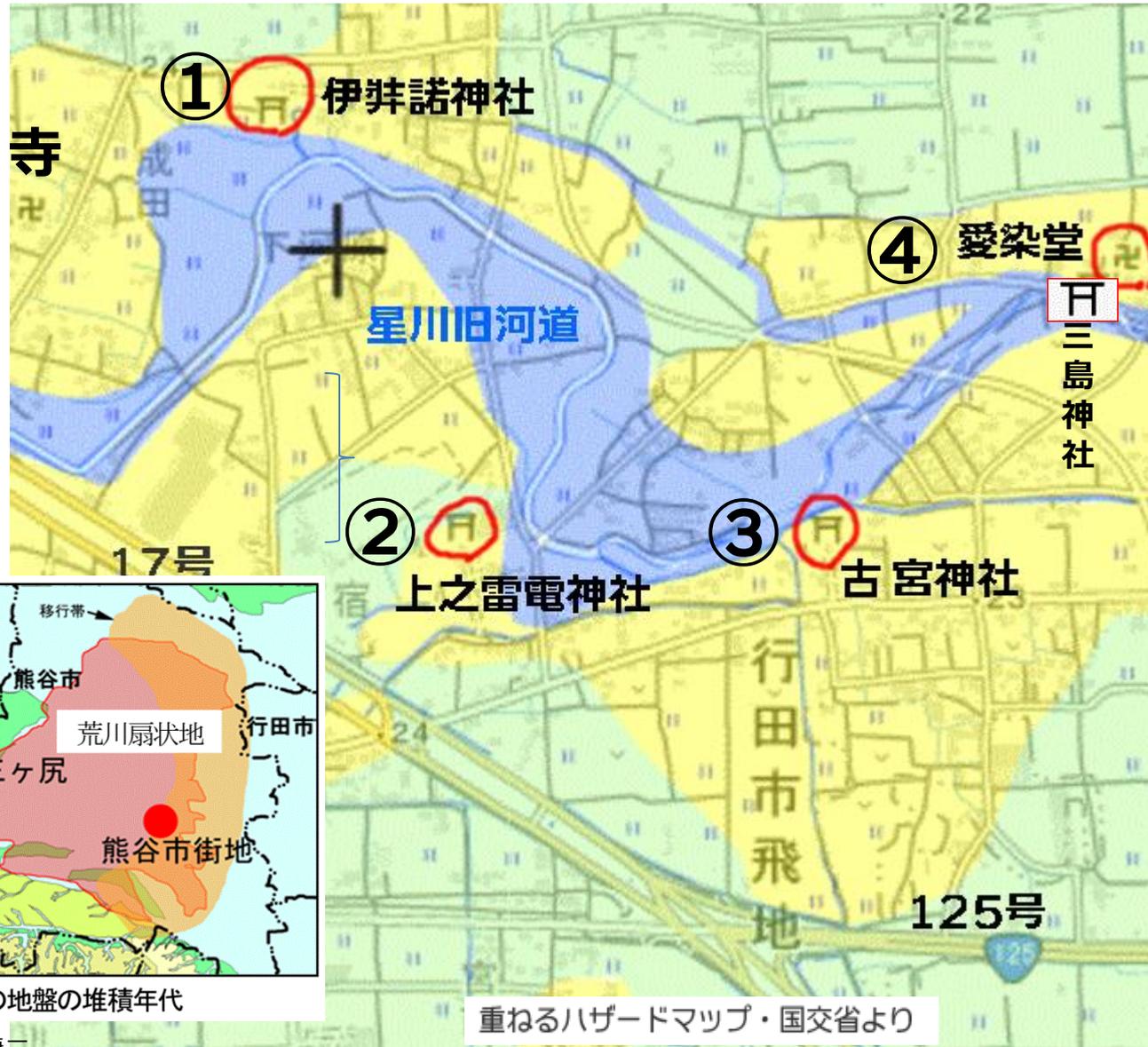


図-1 荒川扇状地周辺の地盤の堆積年代

土木学会論文 齊藤 滋、福岡 捷二
(中央大学理工学部 土木工学科)より

13-①伊弉諾神社

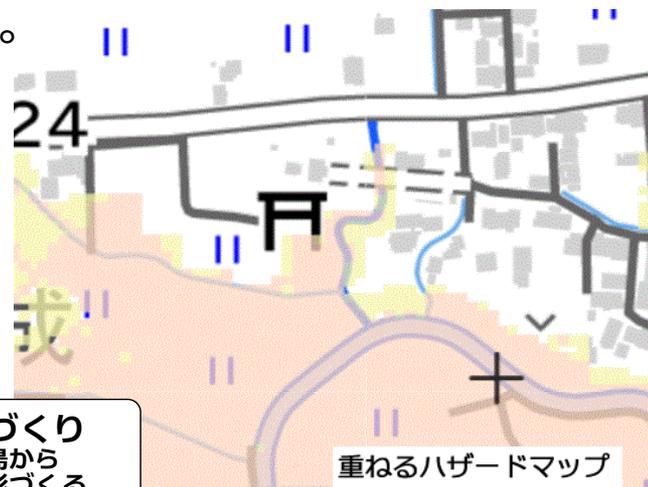
イザナギ 熊谷市上川上36

創建1185～1573年(鎌倉から室町時代)
祭神：伊弉諾命 伊弉冉命 猿田彦命
大日靈貴命

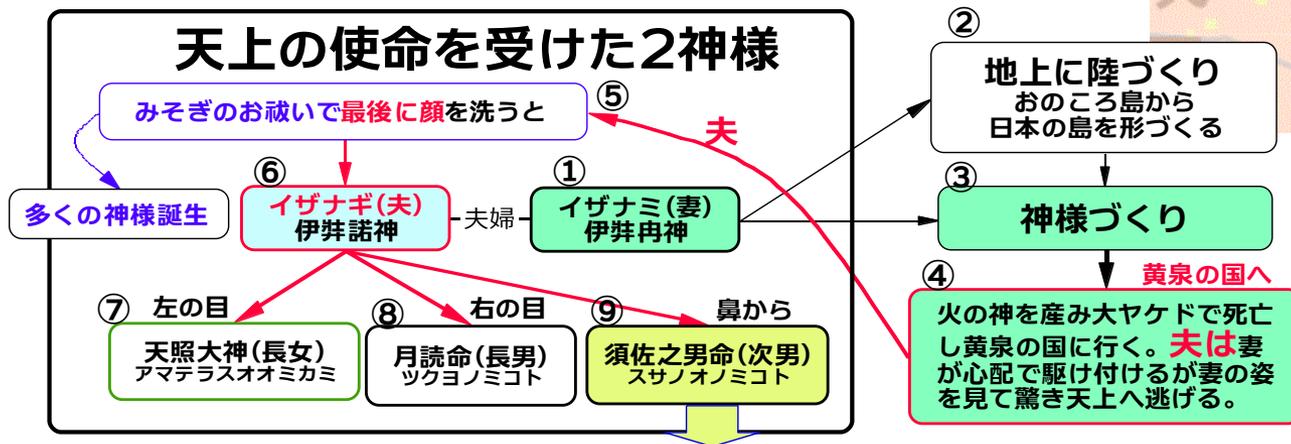


当社の創建は、中世、紀伊国熊野三所権現を勧請したことによると伝えられ、この伝承に基づくものと言われており、当社(伊弉諾神社)と隣村の下川上の熊野社、大塚の熊野社の三社が総称して「熊野三所権現」と呼ばれている。

(猫の足あとより)



重ねるハザードマップ



ウィキペディア 22

伊弉諾命と伊弉冉命が、天沼矛（あめのぬぼこ）で下界をかき回し、日本で最初に生まれたのが淡路島・・・・・・・・・・・・・・・・・・>

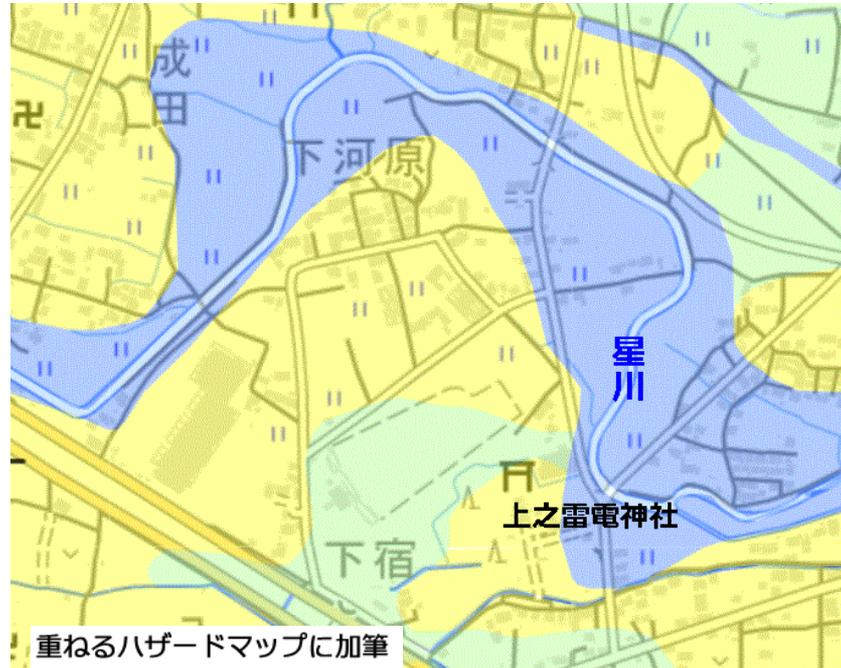
13-②上之雷電神社

(上之村神社) 熊谷市上之16 創建 平安時代

大雷神社主祭神 : 大雷神
上之村神社主祭神 : 事代主命、大山祇神、大己貴命



創建は平安時代以前、再興は応永（1394-1428）、忍城で有名な成田氏の庇護の下、熊谷でも随一の広大な境内地を誇る有力な神社となりました。社名は、明治2年に現在の上之村神社に改められるまで、「久伊豆神社」あるいは「久伊豆明神社」と号していました。熊谷市鬼門の守護として鎮座し、その境内の広さは市内でも随一のものです。 ホームページより



13-③古宮神社

こみや

三祭神(石凝姥命、少彦名命、武甕槌命)

熊谷市池上606



当地は荒川の扇状地先端に位置し、熊谷にて大きく南に流路を変える荒川の伏流水の湧き出る地域で、地名の池上はその湧水地に由来する。

そうした水源の周辺に早くから集落が形成され、水田が開かれた。(神社の案内板)

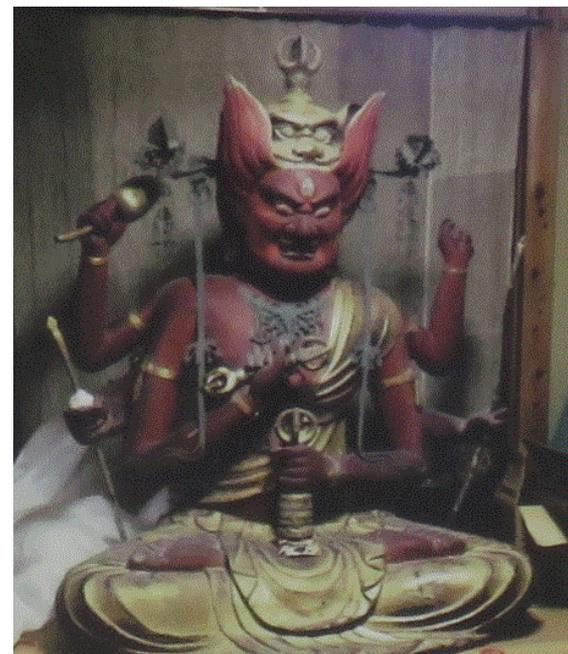


13-④宝乗院 愛染堂 熊谷市下川上33-1

(ほうじょういん あいぜんどう)

1726年建立、江戸時代から関東一円の染物業者が多く参拝した。高さ1.15mの愛染明王座像は全身赤色で三面六臂(さんめんろっぴ)の姿。

愛染堂は、平成27年度から28年度にかけて保存修理工事が実施され、平成28年9月に本尊の愛染明王を還御し、落成式が行われました。愛染堂は江戸時代中期の建造物で、本尊の愛染明王は、平安時代末期に星川を流れて当地にたどり着いた逸話が残されていますが、仏像の形状などから、江戸時代初期の制作であると推定されています。(熊谷市ホームページより)



三島神社
祭神は
大山祇命



14.縄文ロマンの遺跡・神社・古墳(桶川/菖蒲)

大宮台地の桶川の北端で元荒川と赤堀川が流れており、農業には適していた地域で、縄文・古墳文化の発達した地域であったと思います。



散策ルート

- ①氷川天満神社(桶川市)
コウノトリが尊像を背負って飛来
- ②後谷遺跡公園(桶川市)
国指定、重要文化財
ミズク土偶など多数発掘
- ③多気比賣神社(桶川市)
桶川市内最古(紀元前500年)
- ④天王山塚・古墳(菖蒲)
栢間古墳群で最大(全長100m)
- ⑤神明神社(菖蒲)
景行天皇時代、西暦70~130年
伊勢神宮の分霊、参道500m

赤堀(桶川)/上栢間(菖蒲)の

縄文・古墳ロマン



縄文時代

紀元前1万4千年～
2,500年

縄文土器
土罎

紀元前3500年頃：三内丸山遺跡

紀元前500年頃：水田稲作広まる
青銅器や鉄器が大陸から伝わる
紀元前400年頃：村から集落へ

②後谷遺跡(桶川)：縄文時代の
終わり。今から約3000年前

弥生時代

紀元前400年～
300年
弥生土器

前方後円墳が作られる

③多氣比賣神社(桶川)：
紀元前500年前に創建

古墳時代

300年～600年

埴輪

⑤神明神社(菖蒲)：
紀元71～130年に創建

④天王山塚等の古墳が多く
見られる上栢間地域(土器も)

飛鳥時代

592年～710年

奈良時代

710年～1185年

縄文時代の遺跡「後谷遺跡」から発掘された出土品のうち
645点が平成23年6月に国の重要文化財に指定されました。
平成30年には、出土品の一部が東京国立博物館の特別展で展
示されたほか、フランスにあるパリ日本文化会館でも展示さ
れました。
桶川市教育委員会



後谷遺跡の出土品の展示は、桶川市歴史民俗資料館(川田谷)
ですが、令和6年4月まで休館しております。

①氷川天満神社

桶川市加納771 祭神 素戔鳴尊、菅原道真公

神社の縁起は、「1450年(室町時代)正月24日の夜に社の森に光が差し、コウノトリが尊像を背負って飛来し、社に安置して飛び去った」言われています。1712年に菅原道真を祭神として上加納の鎮守として伝えられています。



境内には、諸病に効くと言われたご神水井戸(右写真)があり、この水を用いた薬湯は有名であった。この神社には、「天満宮」と記された木製の社号額がありますが、梵語学者として有名な真言宗の僧・盛典が1688年(江戸時代)に奉納したもので、桶川市指定文化財に指定されています。



②後谷遺跡

桶川市赤堀2-5

縄文時代後期から晩期(3,500~2,500年前)



資料の展示は桶川市歴史民俗資料館
桶川市川田谷4405-4



ミズク土偶

- 低湿地の遺跡：現在の地表の地下3~5m地下から、縄文時代の生活の跡が当時のまま見つかったとのこと。
- 特徴：竪穴式住居、縄文人の生活と生業の空間が一体として発掘された。
- 出土：大量の土器や石器、土偶、装身具類
地下水による天然の真空パックによって腐敗から守られ木の道具や食糧としていた木の実、動物の骨等が大量に発見された。
- 国の重要文化財指定として、桶川市歴史民俗資料館に展示。

遺跡に掲示されている看板より
(桶川市教育委員会)

③多氣比賣神社 桶川市篠津58

祭神 豊葦武姫命(とよあしたけひめ)
安産、子宝の神様
桶川市内最古の神社(紀元前500年)



は
な
ち
よ
う
ず

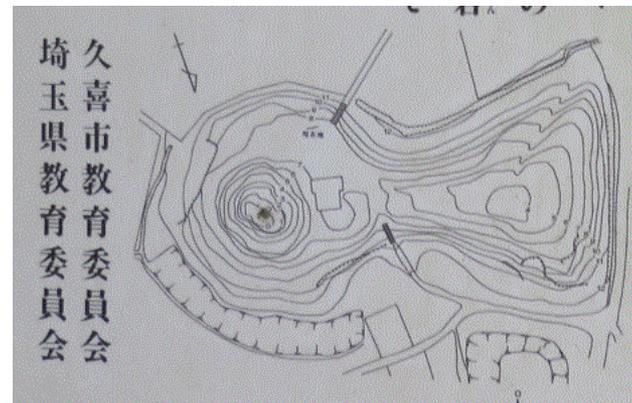
花
手
水
を
始
め
ま
し
た

多氣比賣神社の創建年代等は不詳ながら、第3代安寧天皇の代の創建とも伝えられ、延長5年(927)に編纂された延喜式神名帳に記載される「多氣比賣神社」に比定される社です。江戸期には姫宮社と称し、篠津村の鎮守として祀られ、明治初年社号を多氣比賣神社と改称、明治6年村社に列格、明治40年五丁台字上耕地の稻荷社を合祀しています。(猫の足あとより)

④天王山塚(前方後円墳)

栢間古墳群の1つ

埼玉県指定史跡 久喜市菖蒲町上栢間3284-1



全長 100m超、 主軸 東西
高さ 後円部10m、 前方部9m
幅 後円部55m、 前方部62m

栢間古墳群は9基からなり、県の重要遺跡に選定されている。その他に打出塚古墳、富士塚古墳、禿塚古墳、芝原古墳、本村古墳など9基からなる。

石室に使われた安山岩から古墳時代後期(6世紀後半)。



前方部にある薬師堂



後円墳への上り



堀の一部

説明看板より(久喜市教育委員会)

⑤神明神社

創建 景行天皇時代(西暦70~130年) 祭神 天照皇大神(内宮)
久喜市菖蒲町上栢間3366 豊宇気毘売神(下宮)
(豊受大神)

伊勢神宮の分霊



神社の特徴：500mを超す参道林と境内林からなる。

自生する樹木には、ムクノキ、ヒサカキ、シラカシ、ミズキ、エゴノキ、シロダモ、ヌルデ、アカメガシワ、アカシデ、イヌシデ、ガマズミ、コナラ、ケヤキ、スダジイ、アカマツ等が見られる。

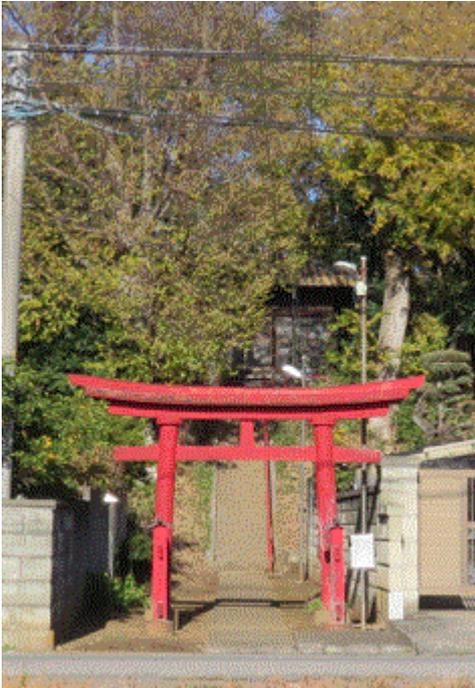
潜在的にはヒサカキ、サカキを主体とするシラカシ群を自然植生とみることができる。埼玉県東部低地には潜在自然植生をよく示す広域的な林は少なく貴重である。(埼玉県教育委員会、久喜市教育委員会の説明看板より)

15. 小谷場稲荷神社

川口市小谷場957（小谷場字台）

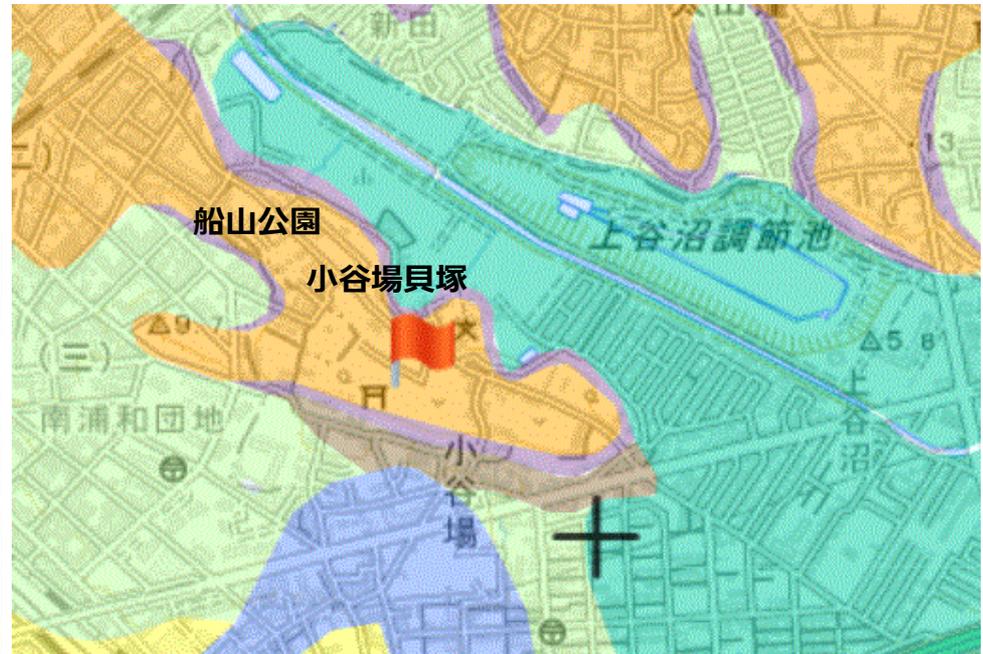
祭神：保食命（うけもちのかみ）

保食神は、日本神話に登場する神である。
『古事記』には登場せず、『日本書紀』の神産
みで登場、女神と考えられる。 ウィキペディアより



当社は、大宮台地南端に位置する「岡の台」と呼ばれる小高い丘の上に鎮座している。

小谷場の鎮守として祀られてきたこの岡の南側の低地には、かつては広々とした水田が広がっており、当社はそれを望む位置にあることから、恐らくは小谷場の村が、水田耕作を中心とした村落として安定し始めた江戸時代初期に、耕地の安泰を願って勧請されたものと思われる。
埼玉県神社庁「埼玉の神社」より）



重ねるハザードマップに加筆

16. 仲蔵院/八坂香取稻荷神社

春日部市八丁目36



神林山 仲蔵院は、永禄元年信長公の時代に正観音菩薩をご本尊として春日部の地に開創された真言宗のお寺です。粕壁宿の風情を残す閑静な住宅街の奥にある境内には、隣接する小鳩保育園からの元気な子どもたちの声が時折聞こえてきます。(写真・説明はホームページより)



八坂香取稻荷合社

の創建年代等は不詳ながら、香取社と称し、永禄元年（1558）に仲蔵院住職秀宥が再建、当地が下総国から武蔵国へ編入された頃に八幡大菩薩を相殿に祀ったといひます。明治36年に境内社だった稲荷神社と八坂神社（牛頭天王）を合わせた合殿とし、明治45年には字樋籠の香取社を合祀しています。(写真・説明はホームページより)



Google Earth

お寺と神社が隣り合わせにあります。

17. 田無神社

西東京市田無町3-7-4

大国主命。級津彦命（しなつひこのみこと）・級戸辺命（しなとべのみこと）として金龍、境内各所に黒龍、白龍神、赤龍、青龍を配祀し五龍神として信仰されております。



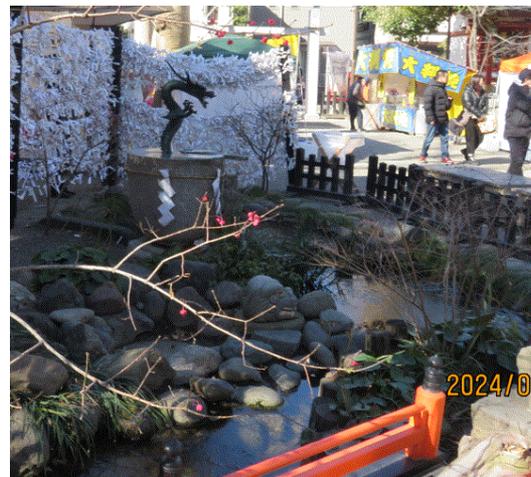
また、尉殿大権現と称されていた創建当初より級津彦命（しなつひこのみこと）・級戸辺命（しなとべのみこと）をお祀りしております。この二柱は龍田大社や伊勢神宮・内宮の別宮である風日祈宮、外宮の別宮である風宮などでお祀りされる風を司る神様です。

尉殿とは享保期（1716 1736）の館村（現新座市）の古文書によると尉殿権現は水神であり、俗に十殿、ぞうのと呼ばれると記されています。埼玉県、群馬県を中心に水や井戸、湿地や川の神様としてジュードノ様、ズードノ様、重殿様、増殿様と呼ばれる神様がお祀りされています。

説明文は神社ホームページより



重ねるハザードマップ・国交省より



龍神池



18. 春日部八幡神社

春日部市粕壁5597

今から約八百年前、源頼朝が鎌倉に幕府を置いていた頃、粕壁の浜川戸に春日部重実という人がおり、大袋、大沢、桜井、新方、増林あたりを領地としていました。

この重実の子に実景、そしてこの実景の孫に重行という人がいました。

彼は長い間、相州（現在の神奈川県）にある鶴岡八幡宮を敬信していて、しばしばの合戦にもその霊護を蒙ったので、礼拝のため鎌倉時代（1130年代）

に鶴岡八幡宮を模してこの八幡神社を造営したと伝えられており、森の一部は彼の館跡と言われています。
ホームページより



誉田別尊（応神天皇）、息長足姫尊（神功皇后）、武内宿禰命、豊受姫命

内陸性砂丘の上に神社があります



中川低地の河畔砂丘群 浜川戸砂丘

河畔砂丘とは、砂床河川の中・下流域の流路に沿って形成される内陸性の砂丘である。

埼玉県東部の中川低地には、利根川の旧河道に沿って点々と砂丘列が残されている。

これらは、榛名山や浅間山の噴火による噴出物を母材とする利根川の土砂が、平安時代～室町時代以降の寒冷期に強い季節風によって吹きためられ、自然堤防に沿って形成されたものである。宗教法人八幡神社、宗教法人稲荷神社、春日部市記念物（文化遺産オンラインより引用）

春日部八幡神社/春日部稻荷神社の地形 春日部市粕壁5597

中川低地の河畔砂丘群 浜川戸砂丘 埼玉県指定 天然記念物 平成28年3月15日

榛名山や浅間山の火山灰等に由来する大量の砂が平安～室町時代の寒冷期の強い季節風により、利根川の旧河道沿いに吹き溜められて形成された**内陸性の砂丘**。長さ200m、幅50mの規模で八幡様と稻荷神社の境内にみることができる。(看板)



埼玉県指定 天然記念物
「中川低地の河畔砂丘群 浜川戸砂丘」
榛名山や浅間山の火山灰等に由来する大量の砂が平安～室町時代の寒冷期の強い季節風により、利根川の旧河道沿いに吹き溜められて形成された内陸性の砂丘。
長さ 200m、幅 50m の規模で八幡神社と稲荷神社の境内にみることができる。
平成 28 年 3 月 15 日 指定

春日部
稻荷神社
(雄略天皇
478年頃)。
伏見稻荷大社

19. 茂林寺

群馬県館林市堀工町1570

1426年、大林正通大和尚によって開山された曹洞宗寺院

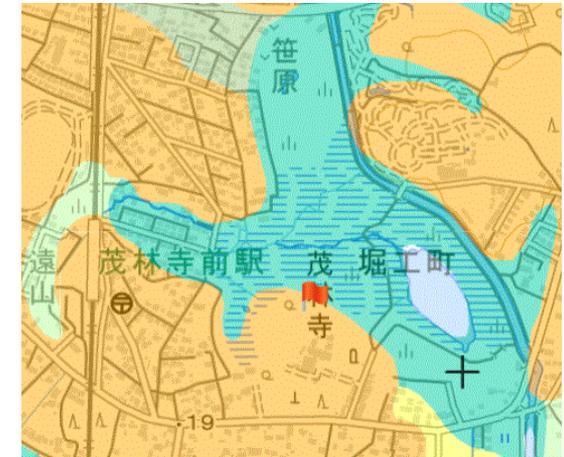


福を分けてくれる



ウィキペディアより

お寺は台地にあります、すぐ裏は低地で茂林寺沼があります。



重ねるハザードマップ・国交省より

福を分け与える「紫金銅分福茶釜」で、湯で喉を潤す者は、開運出世・寿命長久等、八つの功德に授かると言いました。「ぶんぶく」という名の由来については、“茶釜は8つのごりやくを持っていたが、なかでも「福を分ける力」が一番大きかったので、福を分ける茶釜、つまり「分福茶釜」と呼ばれるようになったのだと言われています。

20. ^{おおさき}大前神社

栃木県真岡市東郷937

大前神社は1500年有余の歴史を誇る延喜式内神社
・祭神：大国主命(大黒様)と事代主神(恵比寿様)
・大黒様と恵比寿様の縁起の良い親子が祀られており、
多くの参拝者があります。



恵比寿様



二宮神社



二宮尊徳は五行川等の改修を行いました
が、この川の左側に祠があります。

小冊子2号へ

